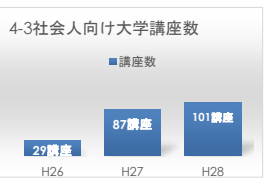


基本方針	意識指標 (主観的指標)	番号	指標	照会先	H26～H28の推移	H26	H27	H28	評価・今後の検証																											
1 安心安全で誰もが集える屋外スペースと建物、施設の整備を進めます。	近所を安心して外出できている高齢者の割合 (19.6%)	1-1	秋田市公共施設のバリアフリー化率	秋田県福祉政策課	<p>1-1 秋田市公共施設のバリアフリー化率</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>率</th></tr> <tr><td>H26</td><td>17.50%</td></tr> <tr><td>H27</td><td>18.40%</td></tr> <tr><td>H28</td><td>20.20%</td></tr> </table>	年度	率	H26	17.50%	H27	18.40%	H28	20.20%	17.50%	18.40%	20.20%	(評価) 市内の公共施設のバリアフリー化率は、年々上昇しており、今後も全国的なバリアフリー化が進むものと予想され、本市においてもさらなる上昇が期待される。 (今後の検証) まち全体で取り組むバリアフリー化 バリアフリー化は、今後の高齢社会を見据え、まち全体で取り組むべき施策であり、建築物だけではなく鉄道、バス、道路等の交通施設におけるバリアフリー化も進める必要があることから、関係者が一体となって継続的に推進する必要がある。																			
		年度	率																																	
		H26	17.50%																																	
H27	18.40%																																			
H28	20.20%																																			
1-2	高齢者の交通事故発生状況	秋田県警本部	<p>1-2 高齢者の交通事故発生状況</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>死者数</th><th>うち高齢者数</th><th>負傷者数</th><th>うち高齢者数</th><th>被害者数</th><th>うち高齢者数</th></tr> <tr><td>H26</td><td>1129</td><td>2</td><td>151</td><td>4</td><td>6</td><td>3</td></tr> <tr><td>H27</td><td>1097</td><td>4</td><td>165</td><td>6</td><td>3</td><td>3</td></tr> <tr><td>H28</td><td>1199</td><td>6</td><td>201</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr> </table>	年度	死者数	うち高齢者数	負傷者数	うち高齢者数	被害者数	うち高齢者数	H26	1129	2	151	4	6	3	H27	1097	4	165	6	3	3	H28	1199	6	201	3	3	3	死者 高齢者 うち	2	4	6	交通事故による高齢者の死者数、負傷者数ともに増加傾向にある。また、特殊詐欺被害については、県警をはじめ、金融機関など多くの関係機関が被害防止のPR活動を行っており、昨年度よりも減少した。 (今後の検証) 県警との連携の強化 高齢ドライバーによる交通事故は全国的にも増加傾向にあり、運転免許の自主返納を促す取り組みも広がっている。今年度から秋田中央警察署と各関係機関が連携した組織「エイジフレンドリーネットワーク」が発足。今後もこうした連携を強化し、全县を上げて交通事故および特殊詐欺被害の発生を防ぐための対策を講じる必要がある。
年度	死者数	うち高齢者数	負傷者数	うち高齢者数	被害者数	うち高齢者数																														
H26	1129	2	151	4	6	3																														
H27	1097	4	165	6	3	3																														
H28	1199	6	201	3	3	3																														
1-3	特殊詐欺被害件数	秋田県警本部	<p>1-3 高齢者の特殊詐欺被害件数</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>被害件数</th></tr> <tr><td>H26</td><td>22</td></tr> <tr><td>H27</td><td>39</td></tr> <tr><td>H28</td><td>21</td></tr> </table>	年度	被害件数	H26	22	H27	39	H28	21		22	39	21																					
年度	被害件数																																			
H26	22																																			
H27	39																																			
H28	21																																			
2 交通機関の利便性の向上をはかります	バスや電車などの交通機関は便利で利用しやすいと思う高齢者の割合 (18.3%)	2-1	コインバス資格証明書交付率	長寿福祉課	<p>2-1 コインバス資格証明書交付率</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>率</th></tr> <tr><td>H26</td><td>57.96%</td></tr> <tr><td>H27</td><td>59.27%</td></tr> <tr><td>H28</td><td>60.80%</td></tr> </table>	年度	率	H26	57.96%	H27	59.27%	H28	60.80%	57.96%	59.27%	60.80%	(評価) 交付対象となる高齢者の増加とともに、今後も増加が予想される。 (今後の検証) バス路線の維持 コインバス資格証明書を交付し、高齢者の外出を促進するためには、バス路線の維持が何よりも重要であることから、引き続き交通事業者、行政、市民が連携しながら公共交通機関の在り方について考えていく必要がある。																			
		年度	率																																	
		H26	57.96%																																	
H27	59.27%																																			
H28	60.80%																																			
2-2	ノンステップバス、低床バス導入状況	(株)秋田中央交通	<p>2-2 ノンステップバス・低床バス導入率</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>率</th></tr> <tr><td>H26</td><td>54.10%</td></tr> <tr><td>H27</td><td>31.60%</td></tr> <tr><td>H28</td><td>60.30%</td></tr> </table>	年度	率	H26	54.10%	H27	31.60%	H28	60.30%	54.10%	31.60%	60.30%	(評価) 平成27年度に大幅に下がったものの、平成28年度は一気に導入が進んだ。バスを利用する高齢者にとってはノンステップバスの増加は、主観的指標の割合の増加に直結すると思われるため、今後も積極的な導入を期待したい。 (今後の検証) バス事業者への新たな支援策の検討 他市(川崎市等)では、ノンステップバス導入促進補助金を交付している事例もあり、本市においても、バス事業者に対する新たな支援策を考えるなど、高齢者が利用しやすい公共交通の整備について検討が必要。																					
年度	率																																			
H26	54.10%																																			
H27	31.60%																																			
H28	60.30%																																			
2-3	ユニバーサルデザインタクシー・福祉タクシー導入状況	秋田県ハイヤー協会	<p>2-3 ユニバーサルデザインタクシー・福祉タクシー導入率</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>率</th></tr> <tr><td>H26</td><td>10.70%</td></tr> <tr><td>H27</td><td>3.50%</td></tr> <tr><td>H28</td><td>7.70%</td></tr> </table>	年度	率	H26	10.70%	H27	3.50%	H28	7.70%	10.70%	3.50%	7.70%	(評価) 平成27年度に大幅に下がったものの、平成28年度は一気に導入が進んだ。今後、高齢者の運転免許証の返納が進むことにより、タクシーを利用する割合も増加すると予想されることから、福祉タクシー等の需要は高まるものと思われる、引き続き導入に向けた取組を期待したい。 (今後の検証) 福祉タクシー等導入事業者のPR 東北運輸局秋田運輸支局のホームページには、ユニバーサルデザインタクシーを導入している事業者名を掲載するなどのPRを行っており、そういったPRにより他社も導入を検討することも考えられることから、本市においても何らかの支援ができないか検討が必要。																					
年度	率																																			
H26	10.70%																																			
H27	3.50%																																			
H28	7.70%																																			

基本方針	意識指標 (主観的指標)	番号	指標	照会先	H26～H28の推移	H26	H27	H28	評価・今後の検証
3 高齢者の住環境を整備します	現在の住環境に満足している高齢者の割合 (住環境に何らかの不便・不満を感じている高齢者の割合 (74.6%)	3-1	高齢者世帯のうち高齢者等の設備(バリアフリー化)の設置住宅の割合	住宅・土地統計資料 ※市住宅整備課ホームページより確認「秋田市住生活基本計画」		平成25年住宅・土地統計調査 ・バリアフリー化率 43.7% ※65歳以上の世帯員のいる主世帯総数53,050のうち、一定のバリアフリー化 23,200			
		3-2	住宅リフォーム助成件数、年間リフォーム実施比率	住宅整備課		4.00%	2.93%	2.60%	(評価) 住宅リフォーム比率は年々減少傾向にある。 (今後の検証) 住宅リフォームへの補助制度 住宅リフォームについては、本市だけでなく秋田県でも補助金を交付しており、高齢者が住み慣れた自宅ですべて暮らせるよう、引き続き補助を続ける必要がある。
		3-3	介護保険制度における住宅改修件数	介護保険課		1106	1059	933	(評価) 住宅リフォーム比率と同様、介護保険制度における住宅改修件数も年々減少傾向にある。 (今後の検証) 制度の積極的なPR 介護保険制度における住宅改修についても改修費として市から支給されることから、今後も、制度に関する分かりやすいPRを行っていく必要がある。
		3-4	サービス付き高齢者向け住宅戸数	一般社団法人すまいづくりまちづくりセンター連合会※ホームページより確認		542	611	672	(評価) 国において、高齢者の居住の安定を確保することを目的にサ高住の供給促進のため、補助・税制・融資による支援を実施していることから、全国的に増加傾向にある。本市においても、今後、ますます増加すると予想される。 (今後の検証) サ高住事業者の健全な経営 年々サ高住の数が増加している一方で、サ高住事業者の廃業も全国的に増えている。終の棲家として入居した高齢者が追い出されるような事態にならないよう、事業者の健全な経営が期待される。
4 高齢者の社会参加をはかります	余暇の過ごし方に満足している高齢者の割合 (56.9%)	4-1	過去一年以内に趣味・スポーツ・文化・生涯学習などの社会活動に参加した高齢者の割合	長寿福祉課	平成27年度秋田市エイジフレンドリーシティ市民意識調査より	32.40% ※65歳以上の割合			
		4-2	地域活動(地域での自治活動や市民活動)に参加している人の割合	地域福祉推進室	平成24年度市民意識調査より	平成24年度 49.3%			
		4-3	大学で社会人向けに開催されている講座数	※県内8大学(短期大学含む)		29	87	101	(評価) 大学の公開講座は当初、大学の社会貢献や認知を広める目的で始まったが、少子化が進む中、新たな収入源の確保として、学生以外を対象とした講座を開く大学が全国的に増えている。特に時間にゆとりがあるシニア層にとっては、セカンドライフを充実させるための一つのきっかけとして受講されている方も多い。 (今後の検証) リカレント教育の充実 近年、各大学では、それぞれの特性や地域性に合わせて、多様な学びなおしのプログラムが進行しており、社会人だけではなく、退職後のセカンドライフの過ごし方の一つとして、今後もリカレント教育が推進されていくものと思われる。 ※秋田大学、秋田県立大学、国際教養大学、ノースアジア大学、秋田公立美術大学、日本赤十字秋田看護大学、聖園短期大学、聖霊女子短期大学

基本方針	意識指標 (主観的指標)	番号	指標	照会先	H26~H28の推移	H26	H27	H28	評価・今後の検証		
4	高齢者の社会参加をはかります	余暇の過ごし方に満足している高齢者の割合 (56.9%)	4-4	1日20分以上の運動を週1回以上実施している人の割合	保健総務課		—	48.30%	50.70%	(評価) 7年前の調査に比べて65歳以上で週1回以上運動をしている割合が増加しており、一方で、65歳以下の年代すべてにおいて大幅に減少していることが分かり、非常に興味深い結果となった。 (今後の検証) さらなる効果的な運動メニューの提供 若い世代よりも、むしろ高齢者のほうが運動しているという結果となり、高齢者の健康志向が高まっていることがうかがえる。引き続き健康寿命を延ばすような運動メニューを提供するなど、若い世代も参加できるような機会を作ることが必要。	
			4-5	地域サロン開催状況	秋田市社会福祉協議会		138	187	195	(評価) 平成13年度から実施している秋田市社会福祉協議会による地域サロン事業は、年々サロン数が増加しており、長年この事業を継続している市社協の努力が窺える。趣味などが多様化している現代において、今後は、今までにない、前例にとられない活動のサロンが増えることが予想され、参考となるような活動をしているサロンを積極的に紹介するなど、PR活動に力を入れると、他の人たちのイメージも沸きやすいと思われる。 (今後の検証) サロン不参加者への対応 サロン活動に積極的に参加している人は、社会とのつながりもあるが、それ以外の人たちをどう呼び込むかが今後の課題であると思われる。	
			4-6	高齢者がスポーツ活動に参加している割合	スポーツ振興課・秋田県長寿社会振興財団※ホームページより確認		開催回数 20 参加人数 513	20	20	20	676
5	あらゆる世代がお互いを認め合う地域と社会をつくります	年齢を重ねることを肯定的に捉える人の割合 (26.3%)	5-1	高齢者や障がい者との交流や、福祉についての理解を授業に取り入れた学校の割合	教育委員会教育研究所		80.00%	81.80%	82.90%	(評価) 中学校については、微減しているが、毎年継続して取り組まれている。 (今後の検証) 条例と運動した取組 「秋田市障がいのある人もない人も共に生きるまちづくり条例」の制定により、「共生する社会」を実現させるためにはどうしたらよいかなど、今後はより具体的な取組が行われることが期待される。	
			5-2	高齢者、高齢社会に配慮した取組を推進する民間事業者(エイジフレンドリーパートナー)数と取組件数	長寿福祉課		パートナー数 — 取組件数 —	—	24	68	398
6	高齢者の就業や市民参加の機会を増やします	ボランティア活動や働くことにやりがいを感じている高齢者の割合 地域活動56.9% 就労65.5%	6-1	日常的にボランティア活動を行っている高齢者の割合と実人数	長寿福祉課・子ども未来センター・社会福祉協議会		介護 350 ファミサポ 88 子育て 36 ボラセン 2439	350	374	477	(評価) 前年度に比べて、いずれのボランティアも増加か、ほぼ横ばいの状態であり、高齢者の活躍の場として、ボランティア活動が重要であることが分かる。 (今後の検証) 活躍の場・交流の場となるボランティア活動の推進 高齢者の活躍の場・交流の場として、ボランティア活動は重要であることから、今後もニーズに合った活動の場を広げていく必要がある。

基本方針	意識指標 (主観的指標)	番号	指標	照会先	H26~H28の推移	H26	H27	H28	評価・今後の検証	
6 高齢者の就業 や市民参加の 機会を増や します	ボランティア活 動や働くことに やりがいを感じ ている高齢者の 割合 地域活動56.9% 就労65.5%	6-2	希望者全員が65歳を過ぎても働ける企業数と割合	秋田労働局※ホームページより確認		79.90%	80.50%	81.10%	(評価) 年々、65歳以上でも働ける企業が増加しており、今後も順調に増加することが予想される。 (今後の検証) 65歳以上の新規雇用についての検証 これまで働いていた企業で、退職後も引き続き継続して働ける企業は増えているものの、新規で65歳以上を雇用する企業も増加することが期待される。	
		6-3	60歳以上のうちシルバー人材センターへ会員登録している実人数と割合	秋田市シルバー人材センター		828	875	944	(評価) 登録数は年々増加しているものの、割合としては横ばいとなっている。 (今後の検証) 高齢者が求める就労スタイルについての検証 全国的に、シルバー人材へ登録する高齢者が減少していることから、その原因について把握する必要がある。高齢者が求めている就労のスタイル(軽作業ではなく、自分のスキルを活かせるような労働スタイルなど)について検証が必要。	
		6-4	地域における支え合いのしくみづくりの先導的取組件数	秋田市社会福祉協議会		対象世帯	-	4288	6363	(評価) 見守りネットワーク事業については、対象世帯・訪問回数ともに、今後も増加することが予想される。 (今後の検証) 担い手・人材の確保 対象となる世帯が今後も増加することを想定し、見守りネット協力者なども増やす必要があると思われる。そのためにも、この事業の必要性、重要性について広く市民に知ってもらい、担い手・人材を確保する必要があると思われる。
						訪問回数	-	39554	52195	
		安心キット	-	10123	10380					
6-5	地域における主体的な市民活動の取組件数	中央市民サービスセンター・地域福祉推進室・障がい福祉課※ホームページより確認		81	86	81	(評価) H22年以降、市民活動団体の設立数が増加傾向にあり、今後もさらに増えることが予想される。 (今後の検証) 市民協働指針に基づく新たな事業の展開 H30年2月に秋田市市民協働指針が策定されたことから、今後は、市民活動と市民協働による新たな事業が展開されることが予想され、今後は各市民サービスセンターを軸とした行政と市民との連携が重要になるとと思われる。			
7 高齢者の情報 環境を整備し ます	地域において、福祉相談やサービスに関する情報が入手しやすいと回答した高齢者の割合(20.6%)	7-1	「高齢者の暮らしに役立つサービス」の情報提供数	長寿福祉課		17	18	17	(評価) サービス掲載事業者は年々増加しているが、サービス件数自体はほぼ横ばいが続いている。 (今後の検証) 高齢者が求める情報とマッチしているか検証 毎年ほぼ同じ内容のサービスについて情報提供しているが、さらに追加して掲載するべきサービスがないか、改めて検証が必要。	
		7-2	広報あきたへの高齢者福祉サービス情報掲載件数	広報広聴課		10	130	136		

基本方針	意識指標 (主観的指標)	番号	指標	照会先	H26～H28の推移			H26	H27	H28	評価・今後の検証
					長寿 トップ	暮らしの	訪問 回数				
7 高齢者の情報 環境を整備し ます	地域において、福祉相談やサービスに関する情報が入手しやすいと回答した高齢者の割合(20.6%)	7-3	秋田市高齢者関連ホームページアクセス件数	アクセス解析ツール		36714	49595	64392	(評価) 高齢者の多くがインターネットを活用して情報を収集できることが窺える。あるいは、離れて暮らす子ども世代が、本市の情報を検索している可能性もある。 (今後の検証) 最新情報を迅速に更新できる体制の構築 平成30年の7月以降、本市のホームページもリニューアルされ、より見やすくなることから、最新の情報を素早く更新できるような体制を整える必要がある。		
		7-4	民生委員訪問回数・相談対応件数	地域福祉推進室		89616	86901	85814	(評価) 訪問回数、相談・支援回数ともに年々減少。6-4の見守りネットワーク事業の件数は増加しており、両事業のつながりについて検証が必要。 (今後の検証) 人材の確保についての検討 年々、民生委員の高齢化が進み、担い手が不足していることから、人材を確保するための施策について、全庁的な課題として庁内推進会議等で検証する必要がある。		
		7-5	地域包括支援センターでの相談件数	長寿福祉課		22533	21578	19946	(評価) 前年度に比べて相談件数は減少したものの依然として2万件に近い数字となっている。 (今後の検証) 相談内容についての状況把握 相談件数だけでなく、相談内容についても調査することで、より実態に即した検証ができると思われる。		
8 保健、福祉、医療サービスを充実させ、地域社会の支援体制を整えます	医療、福祉サービスの充実に満足している高齢者の割合(15.5%)	8-1	秋田市の健康寿命と平均寿命	保健総務課	※平成25年度試算値	健康寿命 男性78.50年 女性82.66年 平均寿命 男性80.21年 女性86.43年 ・健康寿命・平均寿命ともに、国の「健康寿命の算定方針」に基づいて、平成25年度のデータにより試算したものである。 ・健康寿命について、国・県の健康寿命は「日常生活に制限のない期間の平均」を用いているが、本市を含む市町村では「日常生活動作が自立している期間の平均」を用いて算出しているため比較に当たっては注意が必要。					
		8-2	65歳以上のうち要介護認定を受けている人の割合	介護保険課		20.70%	21.30%	20.60%	(評価) H27年度に比べて微減したが、20%代を切る事がなかなか難しい状況である。 (今後の検証) さらなる介護予防事業の強化 県の「めざせ健康寿命日本一！」事業をはじめ、全県を上げた取組が行われており、本市においても県と連携した取り組みについて検証が必要。		
		8-3	認知症サポーター養成講座開催回数、受講者数	長寿福祉課		116	165	135	(評価) 平成28年度の開催件数、受講者数ともに減少したものの、年々、認知症に対する関心は高まっていることから、継続した取組が重要となる。 (今後の検証) 今後ますます求められる認知症への取組 認知症への理解を早い段階で持てるように、小学校で認知症サポーター養成講座を開催するなど、市全体での認知症への取組を推進する必要がある。		
		8-4	高齢者の権利擁護対応件数	長寿福祉課・秋田市社会福祉協議会・裁判所		10	1	8	(評価) 後見人市長申立件数については、各年度により増減はあるものの、高齢者の単身世帯や認知症患者の増加により、今後ますます増加が見込まれる。 (今後の検証) 成年後見制度の担い手の確保 今後、親族等による成年後見が困難な高齢者が増加するものと見込まれ、介護サービス利用契約の支援などを中心に、成年後見の担い手として市民の役割が強まるとも考えられている。そのため、市民後見人を育成し、その活用を図ることなどによって高齢者の権利擁護を推進することも求められている。		